

棚

田

ライステラス

第16号 1999.11.30
(季刊・年4回発行)

発行/全国棚田(千枚田)連絡協議会
編集/ふるきゅらネットワーク
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202
TEL 03-5389-9937/FAX 03-5389-0078



第5回全国棚田(千枚田)サミットにて。丸山千枚田で稲刈り体験。
撮影・佐藤喜博

第5回

全国棚田(千枚田)
サミットに想う

三重県知事

北川正恭

「棚田」に着目していただいたサミットも今回で5回目となりましたが、いままで高度経済成長を夢見て、キャッチアップでがんばってきたことからいえば、こういうものはできるだけ早く壊し、生産性を高めて豊かになるうとしてきたわけです。そこへ最初に「棚田を保存しよう」「すばらしい地域資源を残すことに着目しよう」と言うことは、勇気がいることでしょうし、感覚的に相当鋭いものがないと気がつかないものだと思います。一つの時代を切り開いていくということは、たいへんなことです。最初に手がけていただいたみなさんの先見性に敬意を表したいと思います。

そして、5カ年で一気にここまで盛り上げていただいた関係者のみなさんに心から感謝を申し上げます。そんな努力が相まって、三重県紀和町丸山千枚田にお越しいただけたということは、時代の潮流を感じるものです。

先般ヨーロッパへ行ってまいりました。街づくりなどを視察してまいりましたが、行政は、それぞれの文化資源をどう残すかに最大の苦心をしておりました。街づくり・都市計画の歴史の違いと思いますが、残すことこそが自分たちに課せられた最大の使命だということにすら感じたのです。

本当の豊かさとは、個人個人によって違うものであり、残すことにウエイトをかけていかなければならないのではないかと、21世紀は日本もそうした世紀になり、行政は今曲がり角に来ているのではないかと実は強く感じたところです。

地域を守っていただく方の問題、あるいは生産と棚田の資源との関係、むずかしい点も多くありますが、これからは残すということ、そして資源とはいったいなんぞやということにウエイトを置く方向性で考えていかなければならないと感じております。どうぞみなさん方が、そうした感覚の先駆者として、さらに全国をリードいただけるようお願い申し上げます。

(第5回全国棚田サミット開会式あいさつより)



第5回 全国棚田(千枚田)サミット開催 未来につなげ水のピラミッド

～人と地域の「元気おこし」～ 三重県紀和町にて 9月18日(土)～19日(日)

全国棚田(千枚田)サミットも 5回目を迎え、 次なるステップへ

さる9月18日、19日、三重県紀和町において、第5回全国棚田(千枚田)サミットが「未来につなげ水のピラミッド」をテーマに開催され、約460人が参加し、盛況のうちに終了した。

この夏には、農林水産大臣による「日本の棚田百選」が認定されたほか、全国棚田(千枚田)連絡協議会主催の「棚田パノラマ体験展」が開催された。さらに「食料・農業・農村基本法」において、「中山間地域等の振興」

がはつきりと位置づけられ、活動5年目を迎えた全国棚田(千枚田)連絡協議会において大きな節目のサミットとなった。

18日の全国棚田(千枚田)連絡協議会理事会においても、5年目の節目といった確認がなされ、総会・首長等会議では、個人会員から正会員(個人会員)等の位置づけをめぐる提案が出され、個人と自治体委員のネットワークが検討された。

松阪大学助教授寺口瑞生氏の

基調講演後の「ふるさと探検」や「北山川で語る交流会」は、あいにくの雨となったものの、紀和町ならではの風情とあたたかなもてなしに参加者の心は和み、丸山千枚田の圧倒的な美しさと見事な復田の跡に、だれもが敬意を表さずにいられた。翌19日は、事例発表、シンポジウムと会が進むにつれ、1995年に全国棚田(千枚田)連絡協議会が発足して以来、「棚田地域等緊急整備事業」等の実施、「中山間地域等直接支払制度」の導入をはじめ、「棚田」「千枚田」保全への認識を広めてきた実績を、また棚田保全・活用をめぐる各地域の努力と蓄積の確かさを実感できたサミットであった。

人口約1900人という中で、紀和町の裏方スタッフの人たちが「全国レベルで、こんなに人が来るのははじめてです」と息巻いて奮闘し続けてくださった姿に感謝申し上げます。

「棚田保全の思想」

松阪大学助教授 寺口 瑞生氏

21世紀はNPOの時代

棚田保全もパートナーシップで

寺口氏は、学生を連れ、千枚田オーナーとして丸山地区に親しんでいるほか、紀伊半島南東部の中山間地域をフィールドに地域づくり、過疎問題を研究している。その立場から21世紀の棚田保全を「パートナーシップ」をキーワードに展開しようという提案がなされた。

た。

さらに現在、社会の大きな仕組みの転換があり、いままでは行政サービスを待つ「出前型社会」だったが、いま「自前型社会」へとシフトが変わってきており、企業、行政と手を組んで、自分たちの手で自分たちの町を良くしようという時代がきていると話す。こうしたNPOの発想が必要な時代になってきており、棚田保全も従来の農業問題の枠を超えて、社会の大きな動きの中で考えていけるのではないかと提案した。そのためにも、無償のボランティアでは続かないゆえ、NPOという



仕組みのもと、棚田のサポーターと地元との対等な関係をつくり、企業や行政とパートナーシップを組んで自分たちでできる棚田保全活動しよう、地域社会づくりや森林保全のノウハウを紹介しながら今後の棚田保全へのエールを送った基調講演となった。



荒廃した丸山千枚田を1340枚までに復旧して

三重県紀和町(丸山千枚田保存会前会長) 北 富士夫氏

平成5年から6年間、復田作業に取り組んだ地元紀和町丸山地区の北氏から、地区の歴史、また復田の経過が話された。千枚田復田を希望した前町長をはじめ、人と人との出会い、そしてその輪の広がりが大切という実感のこもったメッセージが印象的だった。

2000年、第6回サミットは、フルーツとお茶の国へ

福岡県浮羽町長 堀 万治氏

次回、サミット開催地の浮羽町と星野村が紹介された。浮羽町は、オーナー制度、棚田で彼岸花めぐりイベントなど都市との交流を深めており、星野村は、棚田開墾を記した石碑が見つかったほか、モデル地区への景観保護・生産援助などの試みをしており、その報告がなされた。

パネルディスカッション

未来につなげ水のピラミッド

～人と地域の「元気おこし」～



コーディネーター：三重大学教授 谷山 鉄郎氏
パネリスト：福岡県浮羽町長 堀 万治氏

三重県紀和町(丸山千枚田保存会前会長)北 富士夫氏
千葉県鴨川市(大山千枚田保存会長)小原 涼美氏
三重県紀和町前町長 中浦 敏夫氏

前半は、各地域の活動報告を軸にパネルディスカッションが進んだ。前紀和町長中浦氏は、丸山地区の人たちが、千枚田保存の役割を担うことで、社会の一員としての自覚が出て、それによって地域が活性化してきた事例を紹介。それを受け、大山千枚田保存会長小原氏は、3年前に発足させた保存会(現在会員約140人)に都市住民会員が多いことも紹介し、千枚田保存だけでなく、地域活性化が大きな課題と話した。また、丸山千枚田保存会前会長北氏は、棚田の多面的機能を知ってもらったためにも子どもたちが多く訪れるような田園づくりをしていきたいと語った。浮羽町長堀氏は、地元の地域おこしのグループを紹介し、地域の人たちの力無くしては棚田保全もサミット開催もないと話し、転作の負担が

大きいという一面がありながらも都市住民との交流が地域を活性化化してきている事例を紹介した。後半は、水問題が取り上げられ、棚田では水の確保が大切で、それゆえ先人の知恵やあぜぬりなどの労苦が刻まれていることも確認し、棚田と水は切っても切れない関係であり、まさに「水のピラミッド」であることを再確認することができた。また、コーディネーターの谷山氏からは、保全のために子どもたちが自然から学ぶ体験学習や食農教育が全国的な気運になっていることの紹介がなされた。地元に着したパネリストたちからの地域の話は尽きることはなかったが、幕引きの時間を迎え、第5回棚田サミットは、2000年第6回棚田サミット開催地、福岡県浮羽町・星野村での再会を約束し、閉会した。

全国の棚田がわかる一覧表

特集

棚田のオーナー制度が全国各地で行われるようになってきました。どの地域でどのようなスタイルで行われているのでしょうか。来年こそ、オーナーになりたい! またオーナー制度の導入を検討中の方々、必見です! 棚田そのもののオーナーに限らず、棚田米オーナー、産直交流、さらに棚田を畑に変えての野菜オーナーも含めました。

特典ほか	インストラクター&管理	募集数	募集期間	実施年数	おすすめポイント
希望者は、翌年9月までお米の雪中保存をしてくれる。(2000円要) 毎月23日頃に、希望の数量を精米して発送するお米発送計画もある。(送料別) 田植え、稲刈り時イベントあり。(参加費別途要)	地元の地主農家それぞれ	細野地区10名、沼木地区10名、計20名まで	2月末 〆切	6年	おいしいお米が雪中貯蔵でますますおいしい。
8月末の草刈りは、出穂観察と湯山地区の秋祭りがセット。湯山神楽を見ることができる。法人契約も可。現在、会社の保養を兼ねてオーナーになっているところも。浦田地区の場合、宿泊は農家民宿を利用できるほか、町には温泉宿も多い。	地元管理組合(地主農家)	約30区画	次回契約は平成13年(2001年)冬。空きができれば随時。ちなみに現在2区画募集中。	7年	趣ある山里と永くじっくりおつきあいできる。
毎月、稲の生長具合の写真や様子が書かれたお便りが届く。その際、村のイベントなどの情報も。おすすめイベントは10月末のそばまつり、きのこまつり。大々的な公募はしていないので、口コミのオーナーばかり。(今回初公表)	旭地区宇・山居の地主農家2人による「SANKYO農産」	現在14区画(最大20区画)	2月末 〆切	5年	公表してきていないだけに、確実なオーナーと関係づくりを行っている。
田植え・稲刈りは、町営の宿泊施設で交流会付の1泊2日(9000円)のツアー式。さらに年3回程度、稲の生長ぶりの写真などを載せた「オーナーだより」が届く。オーナー全員が、オーナー用の田んぼで共同作業を行う。有機栽培のコシヒカリ。	地元、坪野地区農家2人が管理組合	40人程度	2月を 予定	2年	オーナー全員で共同作業を行うだけに、1人でも参加できる。
地元特産品(梅干し、しそゆかり、はと麦茶など)をお米と一緒に送ってくれる。草刈りは、地元が行う日時を知らせてくれるので、参加したい人は参加可能。海岸線の温泉の割引券プレゼント。棚田から富山湾が望め、景観は最高。	長坂地区農家「椿衆」25名	44区画	2月を 予定	1年	日本海に面した地域での棚田オーナーはここだけ。市内には日本海の幸もたっぷり。
地元農家が手取り足取り指導してくれる。名誉住民として地域のお祭りへの参加ができる(負担金が必要なものも有)。市が整備する施設の優先的利用が可能。	大山千枚田保存会農家	30口	12月25日 〆切	0年	棚田百選にも選ばれた、全国でもめずらしい完全なる天水の千枚田での長狭米づくり。
稲刈りのとき、農産物のプレゼント(りんご、馬鈴薯、ねぎ、ぶどうなど)がある。コシヒカリかもち米かのいずれかを選ぶことができる。名勝指定のおぼすの素晴らしい景観での米づくりの気持ちは高く、団体での申込みも多い。	地区農家で結成される「名月会」[全国棚田(千枚田)連絡協議会団体正会員]	50区画	3月ごろ (随時)	4年	名勝地区で自分(たち)の田んぼをもてる楽しみがある。
白米は、年2回(10月と12月)にわけて精米して送ってくれる。村の宿泊施設「やきもち家」で、おやき体験や宿泊ができる(費用別途)。	地元農家6人で結成する「中条村田んぼの会」	制限なし 現在25組	5月中旬 ごろ〆切	4年	地元の協力で、手頃な値段で確実においしいお米(コシヒカリ)が食べられる。
村のログハウスに1泊1000円で泊まれる。田んぼは区画割がなされているわけではなく、田植え、稲刈りはみんなで共同作業。あとは個人自由でやってきてかまわない。近くにはおいしいワインで有名な斑尾高原牧場などがあり、楽しめる。	地元農家1軒	おおむね10区画	5月中旬 ごろ	2年	手頃な値段の上、観光資源も豊富なところで、宿泊が安いのも魅力。
温泉のある宿泊施設・明神館が近くにあり、便利。そのほか観光施設も多く、楽しめる。	地元農家	未定	5月中旬	2年 (*99年度はお休みした)	来年度の予定がはっきりしておらず、詳細未定なので確認を。
未定	地元農家	20組程度の 予定	未定	0年	現在、詳細は未定。平成12年度から初実施。福島新田は棚田百選に選ばれたところ。
ニュースレター「めはり」が年4回届く。季節野菜が年2回届く。丸山千枚田の中にある千枚田荘に1人、1泊1000円で泊まることできる。かかしコンテストなどイベントにも参加できる。	地区農家全戸で結成する「丸山千枚田保存会」	100組	年明け 2月末	4年	まさに千枚田の中に宿泊施設がある地域はここだけ。
オーナー自ら本格的に米づくりを行うことができ、個人的に実行委員会の農家の方に相談して機械を借りたり、水の管理をしてもらったりと、かなり密なおつきあいができる。農作業の時期など情報提供をもらえるほか、地元の地酒、野菜のプレゼントあり。	「棚田農業体験ツアー実行委員会」の中心メンバーである毛原地区農家	5口を予定	1月中旬 3月中旬	2年	本格的な米づくりができる。体験ツアーも実施しているので、まずはツアーに。
会員制ゆえ非公開	地元農家	一般公募は していない	非公開	2年	新井地区は800枚の千枚田が50枚にまで荒れてきており、町は、現在協力という立場だが、今後個別の希望者の応対をしていきたいとのこと。

*ちなみに、ここでいう「オーナー」とは、棚田保全・地域活性化を目的とし、都市住民との交流契約をしているものも含めており、厳密な土地賃借の契約のみに限りません。

「全国棚田オーナー制度」一覧 35件

棚田(千枚田)オーナー・棚田&畑オーナー

名称・地域	主催・問い合わせ	契約期間	大きさ/金額 お米の量	条 件
「コシヒカリオーナー制度」 新潟県安塚町 細野地区・沼木地区	安塚町 問:雪だるま物産館 TEL:02559-5-1010	1年	5a/9万円(中間管理費含む) 玄米180kg	田植えと稲刈りには参加のこと。
「田んぼオーナー」 新潟県松之山町 湯山地区・浦田地区	松之山町 問:町役場 産業課 TEL:02559-6-3131	原則として3年	5a/9万円(1年間) 玄米180kg	田植え、草刈り、稲刈りには最低限参加。
「大島村ふるさと農園」 新潟県大島村 旭地区	大島村 問:村役場 産業振興課 TEL:02559-4-3101	原則として3年	5a/8万5千円(1年間) 玄米か白米150kg	田植え、稲刈りには参加。
「棚田オーナー」 新潟県吉川町 坪野地区	吉川町 問:町役場 産業課 TEL:0255-48-2311	1年	1年間3万円(中間管理費含む) 60kg	原則として、田植え・稲刈りに参加。
「氷見棚田オーナー事業」 富山県氷見市 長坂地区	氷見市 問:市役所 農政課 TEL:0766-74-8086	1年	1a/3万円 玄米にして40kg	田植え、稲刈り、はざかけ作業には必ず参加。
「大山千枚田オーナー」 千葉県鴨川市 大山地区	鴨川市 問:大山千枚田事務局 TEL:0470-99-8033	1年	1a/3万円予定(1枚1枚大きさが変わるため、変更あり) 収穫分	土を守り、自然を愛せる人。農業に興味をもち、農作業に従事できる人。
「更埴市棚田貸します制度<体験コース>」 長野県更埴市 姪石地区(俗称おぼすて)	「棚田保全推進会議(市から委託)」 問:市役所 農林課 TEL:026-273-1111(内線443)	1年	1㎡/300円(田の大きさにあわせて金額も異なる。多くは1a前後、3万円程度) 収穫分	田植え、草刈り、稲刈り、脱穀には最低参加。なるべく作業に来られる人優先。
「みのりの共和国オーナー」 長野県中条村 大西地区	中条村田んぼの会 問:村役場 振興課 TEL:0262-68-3001	1年	1a/2万3千円 白米45kg	田植え、稲刈り、収穫祭には参加。
「みのりの共和国棚田オーナー制度」 長野県三水村 赤塩地区	三水村 問:村役場 経済課商工係 TEL:026-253-2801	1年	1a/2万5千円 玄米45kg、もしくは白米40kg	とくにないが、田植え、稲刈りには極力参加を。
「みのりの共和国オーナー」 長野県北御牧村 上八重原地区	北御牧村 問:村役場 農村整備課 TEL:0268-67-3311	1年	1口/2万円 30kg程度	田植えツアー、稲刈りツアーに参加。
「未定」 長野県飯山市 福島新田	飯山市 問:市役所 経済農林課 TEL:0269-62-3111	未定	1aを予定	未定
「千枚田オーナー」 三重県紀和町 丸山地区	紀和町 問:町役場 産業建設課 TEL:05979-7-1111	1年	1a/3万円 白米15kg	土を守り、自然を愛せる人。農業に情熱を持っている人。農作業に従事できる人。田植えと稲刈りには参加を。
「棚田農業体験ツアー実行委員会」 京都府大江町 毛原地区	棚田農業体験ツアー実行委員会 問:役場 産業課農政係 TEL:0773-56-1104	1年	1口平均5a~6a/年会費3万円 収穫分	基本的に管理はオーナーがすべて行う。(それゆえ体験ツアーの参加経験者から移行することが多い)
「一粒の会 棚田オーナー」 京都府伊根町 新井地区	一粒の会(大阪・米販売店のグループ) 問:町役場 産業課 TEL:0772-32-0501	1年	全体で5a 収穫分	「一粒の会」がオーナーとなっているので、会の顧客が参加。田植え、草刈り(2回)、稲刈り、稲木干し作業に参加。

特典ほか	インストラクター&管理	募集数	募集期間	実施年数	おすすめポイント
共同菜園で管理組合が育ててくれるサツマイモ5株、黒豆が割り当てられる。田植えのとき、シイタケ、有精卵のおみやげあり。稲刈りのときには栗、地酒(720ml)のおみやげがある。地元の人と仲良くなり、虫観察、じゃがいもほりなどをしている人もいる。	地元農家12名による管理組合	約200組可能('99年度は159組)	2月 2月末	2年	応募多数で抽選もれの心配がないくらい大規模なオーナー制度。
最初に1万円相当の特産品(季節の野菜、果物、葉わさびの加工食品、そば等)が贈られる。年数回イベントご招待。脱穀・収穫祭で行われる棚田コンサートでは、わら細工教室、そば打ち大会なども。宿泊施設利用割引券5000円分プレゼント。	地区21戸全戸で結成する「岩座神棚田保存会」	20区画	2月ごろ め切	3年	地区全体で取り組み、オーナーとの深いつながりをめざしている。
最初、対面式のときにコシヒカリ10kg、有精卵5kgプレゼント('99年の実績)。「道の駅」のお買いあげ補助あり。畑用の野菜の種や苗の入手は相談できる。オーナーが主催するイベントなどもある。	地区棚田農家	水稻20区画 畑 20区画	2月ごろ め切	2年	棚田と畑の両方のオーナーになることができるのは魅力。
収穫祭に招待され、大屋高原は有機野菜の産地ゆえ、ほうれん草やサツマイモの収穫が楽しめる。公社運営の宿泊施設がペンションは2千円引きで、コテージは1500円引きで利用できる。	町のシルバー人材センター派遣の農家	80区画	2~3月 ごろ	3年	自分にあった大きさの田んぼが選べ、最大で5年契約できるので自分の田んぼへの愛着がわく。
農作業を1~10まで体験できる。かかしコンクール、バーベキュー、炭焼きなどいろいろ遊ぶことができる。オーナー自身、提案して自らまじめに、いろいろ遊べる。イベントには、オーナーの出店を出した実績もある。	稲刈地区農家(棚田ルネッサンス実行委員会)	田んぼ=約60組 畑=約70組であるが、リピーターが優先で空きができれば補充	1月末 ~	4年	オーナーと地元農家の仲が良く、ともに遊びを生み出している。リピーターが多い。
有機米。年末に野菜や加工品の詰め合わせのお歳暮が届く。村のキャンプ場無料利用券、温泉無料入浴券プレゼント。毎月、村の広報紙が届く。田植えのときに春祭り、除草のときに「棚田フォーラム」、稲刈りと収穫祭がセットになっている。('99年)	地元地区21戸で結成する「助はんどうの会」の中の農家8戸	お米コース22区画('99年実績数)、おイモコース6区画	2月中	1年	そばや大豆を植えて、豆腐やそばをつくる交流コースも検討中。
夏と冬、野菜などの地元産物がプレゼント。収穫祭に参加でき、おもちや地元料理をいただける。この米は島根県の中でも特A米のコシヒカリ。	上田・平左棚田保存会農家	'99年度は7組	2月末	1年	地元青年会が、地域を考え立ち上げたオーナー制度。現在、全オーナーが継続を希望しているとか。
毎月、稲の生長ぶりを知らせる手紙と町の広報が届く。夏と秋に、イモ、お茶、四万十川の水が送られる。交流会は、田植えと夏のおしゃかさまを奉る夏祭り、収穫祭の3回がある。	神在居地区全12戸の農家で結成する「千枚田ふるさと会」	30区画程度	1月末~ 3月20日 ごろ	8年	日本で一番はじめに棚田オーナー制度をはじめたところだけに、その実績に定評あり。
無農薬米。田植えイベントでは、アイガモを放すほか、山の幸の昼食、無農薬野菜の収穫やサツマイモの植え付け、アメゴ釣りなどが企画。秋の稲刈りイベントでは、サツマイモの収穫、野外での山菜料理などが用意されている。参加料は、オーナー1口につき1人、無料。家族などは別途大人2500円、小・中学生2000円要。	庵谷水稻生産組合 44人	100口	随時	5年	平成3年に自分たちで集落を守るうと結成された庵谷水稻生産組合が主催。イベントのみ参加可。
お米は年3回(10月・11月・12月)にわけて送付してくれる。フルーツ王国ならではの農産物(なし、かき、干したけのこ、ゆずこしょう)などもセット。イベント情報などを載せた「棚田だより」が届く。棚田は石組み。	葛籠地区全10戸の農家	75組程度	12月ごろ ~1月末	2年	博多からも1時間程度と「簡単に行ける田舎」が売り。
年2回、地元の野菜のおみやげがある。田植え、稲刈り後は、地元葉隠牛でバーベキュー大会が行われる。棚田会のメンバーで畜産をしている農家からの提供なので格安。年末には、餅つき大会も。オーナー同士の交流が深まるよう、2年以上のオーナーが、はじめての人に教えるなどの関係をつくっている。	地元の若手農家で結成した「岳信太郎棚田会」11名【全国棚田(千枚田)連絡協議会団体正会員】	上限35区画	4月上旬 5月中旬	3年	リピーターが多いだけでなく、夫婦で4口もつ人もいりほど個々のつながりが深い。
年2回、シイタケやお茶など地元特産物が贈られる。毎月地域のミニコミが届く。地元小学校(全校生6・7人)の運動会など地域行事にご招待。宿泊は学校敷地などでキャンプができる。	菅地区全90戸で結成する「菅地域振興会」からの管理委員2名	現在16区画	随時	4年	地元が自ら自分たちにあったスタイルを考えた「オーナー制度」。

※お米の量で収穫分とあるものは、各地域、反収のばらつきはあるものの、オーナー田では、1a、30kg~50kgぐらい(個人差有)をめやすにして下さい。

特典ほか	インストラクター&管理	募集数	募集期間	実施年数	おすすめポイント
農作業に来る必要はない。名月会の方々につくってもらえる。田植え、稲刈りなど体験コースの農作業日は、知らせてもらえ、参加したければ参加できる。	地区農家で結成される「名月会」【全国棚田(千枚田)連絡協議会団体正会員】	制限なし	3月ごろ (随時)	4年	農作業にまったく出られなくても名勝指定のおぼすて棚田の保全の支援ができる。
ニュースレター「めはり」が年4回届く。	「丸山千枚田保存会」	制限なし(ちなみに、'99年度は186口)	8月末 の予定	1年	農作業に行けなくても1340枚の棚田を守ることができる。
棚田の美しい景観保持と棚田の中にすすきのある風景を守ることができる景観トラストの試み。棚田でとれた白米がもらえるだけでなく、稲刈り等の体験及びイベントにも参加できる。	稲刈地区農家	制限なし	1月末 募集~ 開始	1年	全国初の試み。秋から春までのなつかしい田んぼの景観を守ることができる。

※1a=100m=10m×10m

名称・地域	主催・問い合わせ	契約期間	大きさ/金額 お米の量	条 件
「能勢みくさ山棚田府民農園」 大阪府能勢町 長谷地区	大阪府農とみどりの環境整備公社 問:同公社 農政部 TEL:06-6266-8916	1年	1a / 3万9300円(みくさ山のゴロあわせ) 玄米で30kgを確保	田植え、稲刈り、収穫祭の年3回は極力参加を。
「いさりがみ 「岩座神棚田オーナー制度」」 兵庫県加美町 岩座神地区	岩座神地区棚田保存会 問:町役場 産業課 TEL:0795-35-0080	1年	1a / 5万円 玄米30kg	とくにないが、農作業に極力でもらい、アンケートに答えてもらう。
「だんだんファーム」 兵庫県加美町 西山・轟地区	棚田整備委員会 問:町役場 産業課 TEL:0795-35-0080	1年	水稲1a / 4万5千円 畑0.5a / 3万5千円 水稲&畑併用=7万円 収穫分	できるだけ来られる人。
「棚田オーナー」 兵庫県大屋町 加保地区	大屋町振興公社 問:同公社 TEL:0796-69-1822	2~5年 (毎年更新)	25m~70m(平均50m) 5m/2千円(1万円~2万8千円) 玄米か白米で収穫分	田植え、草取り、稲刈りの年3回は参加。
「棚田ルネッサンス 棚田オーナー」 奈良県明日香村 稲淵地区	棚田ルネッサンス実行委員会 問:あすか夢耕社 TEL:0744-54-9200	1年	田んぼ1a / 4万円 畑 33m / 1万円 収穫分	農作業をこなせる人。田植え、稲刈りだけではなく、種まきから脱穀まで。
「かきのき村大井谷棚田オーナー制度」 島根県柿木村 大井谷地区	助はんどうの会 問:村役場 産業課 TEL:08567-9-2213	1年	お米コース 1a / 3万6千円 おイモコース33m / 2万円 収穫分(おイモコースは、サツマイモ・サトイモ)	年3回(田植え、草取り、稲刈り)は必ず参加。
「上田・平左棚田保存会」 島根県羽須美村 上田地区・平左地区	上田・平左地区青年会 問:村役場 産業開発課 TEL:0855-87-0224	1年	1a / 3万9千円 収穫分	田植え、草刈り2回、稲刈りの年4回は参加のこと。
「千枚田オーナー制度」 高知県梶原町 神在居地区	梶原町 問:町役場 産業振興課 TEL:0889-65-1111	1年	1a / 4万10円(四万十川のゴロあわせ) 収穫分	極力、農作業に出られる人。交流を積極的に行ってほしい。
「無農薬合鴨米オーナー」 高知県大豊町 庵谷地区	庵谷水稲生産組合 問:大豊ゆとりファーム(大豊町庵谷水稲生産組合事務局) TEL:0887-73-1415	1年	1口 / 2万円 合鴨米、玄米で30kg(白米でも可)(宅配料含)	田植えイベント、稲刈りイベントに参加。
「浮羽町つづら地区 棚田オーナー制度」 福岡県浮羽町 葛籠地区	浮羽町棚田保全協議会 問:町役場 企画振興課 TEL:09437-7-2111	1年	1a / 4万円 玄米か白米30kg	田植え、稲刈りに参加。
「ほんなもの棚田米オーナー」 佐賀県西有田町 岳地区	岳信太郎棚田会 問:代表・池田勝幸 TEL:0955-46-2246	1年	1a / 2万8千円 収穫分	最低、田植え、稲刈り、収穫祭の年3回は参加を。
「さこだ 「迫田オーナー制度」」 熊本県矢部町 菅地区	菅地域振興会 問:町役場 経済課 TEL:0967-72-1111	2年	1a / 3万5千円(1年間) 収穫分	月1回の農作業に参加のこと。田植え、稲刈り、脱穀は日にち指定。ほかはそれぞれ、地元管理委員に連絡して参加。

景観等保全オーナー

名称・地域	主催・問い合わせ	契約期間	大きさ/金額 お米の量	条 件
「更埴市棚田貸します制度<保全コース>」 長野県更埴市 姪石地区(俗称おぼすて)	「棚田保全推進会議(市から委託) 問:市役所 農林課 TEL:026-273-1111(内線443)	1年	3万円 玄米か白米で20kg	とくになし。
「丸山千枚田を守る会」 三重県紀和町 丸山地区	紀和町 問:町役場 産業建設課 TEL:05979-7-1111	1年	1口1万円 白米1.5kg(1升)	丸山千枚田の保全を目的とした会なので、とくになし。
「棚田ルネッサンス すずきトラスト」 奈良県明日香村 稲淵地区	棚田ルネッサンス実行委員会 問:あすか夢耕社 TEL:0744-54-9200	1年	すずき(もみすりをしたあとのわらの山)1山の景観 / 3万円 白米で30kg	稲刈りと脱穀に参加して、すずき(わらの山)を組む。

特典ほか	インストラクター&管理	募集数	募集期間	実施年数	おすすめポイント
なんでも自分でつくることができる。苗の斡旋もあり。山田地区は、有機野菜で有名な地区。	山田地区農家5名で結成する「みはらし農園組合」	50~60区画	3月~4月ごろ	6年	山田地区はもともと別荘地で、オーナーには別荘の関係者も多い。
何でも好きな野菜をつくれ、農具は置いてあるので、自由に使って農作業ができる。秋には、おみやげにもち米5kg(目標量・共同ほ場でとれた分を配分)をもらえる。香北町が一望できる場所で、評判がいい。	「いきいき生産部」管理者1人	上限50組	10月末め切	2年	高知市から車で45分のところで、便が良い。
共同ほ場での麦、大豆の栽培を楽しみながら、オリジナルの醤油・味噌が手に入るという、まさに「自給ゲームコース」。	「いきいき生産部」	とくになし	10月末め切	2年	そばやこんにやくも検討中で、ますます加工食品が楽しめる。
種蒔祭、草取り+枝豆パーティへの招待。味噌、こづき豆腐、大豆クッキーづくりに参加できる。豆腐づくり教室などへの招待。	久木野地区農家	約100口	12月ごろから	1年	除草剤は使わない。今年ほかの農薬も使うことなく無農薬だった。

※畑のオーナーはこのほか、各地域でそば・イモ・果樹オーナー制度など行っています。

特典ほか	インストラクター&管理	募集数	募集期間	実施年数	おすすめポイント
「千守会」事務局発行の月ごとのニュースで、そのときどきの有機無農薬野菜や棚田天然米などの産物の購入を申し込むことができる。田植え、稲刈りのツアーで自然農法が学べるほか、イモ掘りや山菜採りなどもイベントもあり。農作業ツアーの際、倉敷まで(車で40~50分)町が無料マイクロバスを出して送迎してくれる。	千守地区全16戸の農家	とくになし	随時	6年	会も地区も、町も協力しあって、誠実で確実な関係が生まれてきている。
米づくりは、減農薬有機栽培で、除草剤は使わず、アイガモ農法。田植え後のさのぼりや稲刈り後で、地酒(幸田地区の棚田米でできた酒)や地元農家もちより野菜等で作る料理がふるまわれる交流会がある。(参加費は年会費に含まれる)	地元「棚田生産組合」と「観光特産協会」のメンバー	15家族以内	5月末め切	3年	リピーターがほとんど。「観光特産協会」が熱心で、交流会等の補助は町から出ている。

特集 全国の棚田がわかる一覧表

都道府県名	市町村名	棚田名	都道府県名	市町村名	棚田名	
佐賀	肥前町	大浦の棚田	大分	別府市	内成棚田	
	玄海町	浜野浦の棚田		緒方町	軸丸北	
	西有田町	岳の棚田		玖珠町	山浦早水	
	小城町	江里山の棚田		院内町	両合棚田	
	富士町	西の谷の棚田		山国町	羽高棚田	
長崎	波佐見町	鬼木棚田	宮崎	えびの市	真幸棚田	
	福島町	土谷棚田		高千穂町	尾戸の口(神々の里)	
	川棚町	日向の棚田			栃又	
	外海町	大中尾棚田			徳別当	
	南有馬町	谷水		日之影町	石垣の村	
	千々石町	清水棚田		五ヶ瀬町	鳥の巣	
					下の原	
熊本	産山村	扇棚田	日南市	坂元棚田		
	坂本村	日光の棚田		向江棚田		
	東陽村	天神木場の棚田 美生の棚田		春の平棚田		
	龍ヶ岳町	大作山の千枚田	鹿児島	入来町	内之尾	
	菊鹿町	静趣活創棚田 番所		穎娃町	佃	
	球磨村	鬼の口棚田 松谷棚田		栗野町	くりの町幸田の棚田	
	水俣市	寒川地区棚田				
	矢部町	峰棚田 菅迫田				
	大分	挾間町	由布川奥詰			

主催：農林水産省構造改善局開発課
認定ヶ所：117市町村134ヶ所
認定：1999年7月26日
農林水産大臣

「オーナー制度」で地域のファンづくりを

棚田のオーナー制度が高知県梶原町で最初にはじまって、来年度で9年を迎えます。全国で30以上の取り組みがありましたが、確かに都市に近いところほど、交通の便が良く、オーナーが地域を訪れる回数も多く、成功しています。しかし、今回みなさんの話を聞いてみると、交通の便だけではないようです。継続率が高いところを参考に、いくつか成功のポイントと、思われたものを書き出してみよう。

①地元農家に、意欲があり、楽しんでいる。
②地域の人が都市の人を受け入れる、開放度が高い。
③熱意あるキーパーソン(担当者・リーダー)がいる。
④オーナーが来なくなるような地元オリジナルの楽しみづくりができてい
る。
⑤オーナーと誠意あるコミュニケーション

「棚田オーナー制度」は、地域を活性化させるための、交流を目的とした1つの棚田活用事業です。ご存知の通り、オーナー制度のみでは棚田保全はできません。しかし、この交流が、地域を開き、地域を元気づけることは間違いないようです。そして、それを契機に次なる展開が生まれてくるのではないのでしょうか。

ンづくりに積極的。⑥オーナー自身にも、地元にもメリットがある、など。

オーナー側が「オーナー制度」を農産物をもらうだけの一方的なサービスと勘違いしても成立しません。逆に地元が引き気味なところに、何度も足を運ぶ気力も失せてしまいます。互いが積極的にかわつてこそ、地域のファンが生まれ、活性化ができていくようです。

畑(棚田の転作)オーナー

名称・地域	主催・問い合わせ	契約期間	大きさ/金額 お米の量	条件
「みはらし農園」 兵庫県一宮町 山田地区	「みはらし農園組合」 問:町役場 農林課 TEL:0790-72-1000	1年	50m ² /1万2千円 収穫分	有機栽培のこと。
「志願農場<農場コース>」 高知県香北町 有瀬地区	J A土佐香美香北支所 生産者グループ「いきいき生産部」 問:同支所 TEL:088-759-2321(内線80)	1年	1a/1万円 収穫分	年2回、イチゴ狩りと稲刈りのイベントがあり、それへの参加を要請。
「志願農場<自給ゲームコース>」 高知県香北町 有瀬地区	J A土佐香美香北支所 生産者グループ「いきいき生産部」 問:同支所 TEL:088-759-2321(内線80)	1年	年会費1万円 醤油1升、味噌3kg(目標量・共同ほ場で収穫分を加工し、配分)	年3回、麦と大豆の種まき、収穫、加工品仕込み、収穫祭に参加のこと。
「大豆耕作団」 熊本県水俣市 久木野地区	愛隣館 問:愛隣館 TEL:0966-69-0485	1年 (7~10月ごろ)	40m ² /4千円('99年度実績)、収穫分を均等に配分。 ('99年は大豆10kg程度)もしくはそれと同価格相当の味噌、こづき豆腐、大豆クッキー。	とくになし。

産直交流&農作業

名称・地域	主催・問い合わせ	契約期間	大きさ/金額 お米の量	条件
「千守会」(農産物共同購入と体験ツアー) 岡山県加茂川町 千守地区	「千守会」と千守地区の住民会 問:町役場 産業振興課 TEL:0867-34-1111	6ヶ月単位 月契約単位	会費は、月額300円(6ヶ月単位で前納) 各自に必要な分を申し込み購入	「千守会」会員制の「産直&農業体験ツアー」。「千守会」とは、千守地区との交流を目的とし、岡山県倉敷市民の有志で構成されている。
「産直交流事業」 鹿児島県栗野町 幸田地区	栗野町観光特産協会の 問:栗野町商工会 TEL:0995-74-2200	1年	1万5千円 10aの田んぼで収穫したお米を15組で分配。例年玄米30kg程度	田植え、草刈り、稲刈りに参加。あとは各自生育状況を極力見に来てほしい。

「日本の棚田百選」認定地区一覧

都道府県名	市町村名	棚田名	都道府県名	市町村名	棚田名	都道府県名	市町村名	棚田名	都道府県名	市町村名	棚田名
岩手	大東町	山吹	長野	中条村	田沢沖	岐阜	恵那市	坂折	島根	横田町	大原新田
宮城	丸森町	沢尻		飯山市	福島新田		上宝村	田頃家		羽須美村	神谷
	栗駒町	西山	静岡	引佐町	久留木木の棚田		久々野町	ナカイ田		旭町	都川
山形	朝日町	榎平		天竜市	大栗安の棚田	愛知	鳳来町	四谷千枚田		三隅町	室谷
	山辺町	大蔵		天城湯ヶ島町	荒原の棚田		設楽町	長江の棚田		柿木村	大井谷
	大蔵村	四ヶ村の棚田			下ノ段の棚田	三重	紀和町	丸山千枚田	岡山	久米南町	北庄
栃木	茂木町	石畑		戸田村	北山の棚田		飯南町	深野のだんだん田			上粉
	烏山町	国見	新潟	安塚町	上船倉の棚田		亀山市	坂本		旭町	小山
千葉	鴨川市	大山千枚田		松之山町	狐塚の棚田	滋賀	高島町	畑の棚田		中央町	大井和西棚田
長野	小諸市	宇坪入		大島村	蓮野の棚田	京都	大江町	毛原	広島	筒賀村	井仁
	上田市	稲倉		高柳町	花坂の棚田		丹後町	袖志	山口	油谷町	東後畑
	東部町	姪子沢			梨ノ木田の棚田	大阪	千早赤阪村	下赤阪の棚田	徳島	上勝町	檜原の棚田村
		滝の沢			大開の棚田		能勢町	長谷の棚田		井川町	下影
	飯田市	よこね田んぼ		下田村	北五百川の棚田	兵庫	加美町	岩座神	香川	池田町	中山千枚田
	八坂村	重太郎	富山	氷見市	長坂		佐用町	乙大木谷		五十崎町	泉谷
	白馬村	青鬼		八尾町	三乗		美方町	うへ山		城川町	堂の坂
	大岡村	慶師沖	石川	津幡町	奥山田		村岡町	西ヶ岡		松野町	奥内
		根越沖		富来町	大笹波水田	奈良	明日香村	神奈備の郷(稲淵)	高知	梶原町	千枚田
		原田沖		輪島市	白米の千枚田	和歌山	清水町	あらぎ島		星野村	広内・上原地区棚田
	更埴市	姨捨	福井	越前町	梨ヶ平地区千枚田	鳥取	岩美町	横尾		浮羽町	つづら棚田
	信州新町	塩本		高浜町	日引		若桜町	菴米		甘木市	白川
	中条村	栃倉	岐阜	白鳥町	正ヶ洞	島根	益田市	中垣内		宝珠山村	竹
		大西		八百津町	上代田		大東町	山王寺	佐賀	相知町	蕨野の棚田

奈良県明日香村

取材・文・石井里津子

都市近郊のメリットと
古都の景観を兼ね備え、
柵田オーナー制度に成功

古都 明日香を荒らす わけにはいかない

秋の彼岸に立ち寄った明日香村は、黄金の稲穂と真っ赤な彼岸花につつまれていた。なだらかな山に拓かれた柵田、万葉集にも詠まれた飛鳥川、飛鳥時代の歴史遺産、手入れのゆき届いた歴史公園、ゆるやかに曲がる道を歩く人々……。村中が、ゆったりとした深い呼吸をし、柔らかな安心感に包まれていた。

里山に開かれた古都。なつかしさと威厳の両方を備えつつ稀有な村。人口約7000人とはいうものの、隣の人口12万人の橿原市の市街地から車で10分、大阪天王寺から私鉄で55分、片道690円で迎り着く。

これほど都市部にありながら村全体が里山の風景を残している

るには、それなりの理由がある。1980年に施行された「明日香法」(正式名称「明日香村における歴史的風土の保全及び生活環境の整備等に関する特別措置法」)による保護だ。開発の波が押し寄せる古都の保存を計ろうと、国が制定に動いた結果である。「明日香には、明日香を荒らすわけにはいかない」という命題があるんです。年間80万人、多いと来る人たちが失望させるわけにはいかないんです。その代わり、ここは「保存、保全」ばかりだから保存アレルギーのようなものがあるんです。

5年前、役場で「農を通じた地域おこし」という課題を抱え、柵田保全プロジェクト「柵田ルネッサンス」を立ち上げた高内良嗣さん(現在・あすか夢耕社)へ「明日香村地域振興公社」はいう。「だから当時、役場の僕の方から『柵田保全』なんていえなかった。たまたま、柵田のある稲渚地区の豊田茂さんと話す機会があった。『荒れていく田んぼをどうにかしたい。このままでとイノシシの里になってしまふ』という地元の声を聞いてはじめて『これや、柵田を守りながら地域おこしや。柵田ルネッサンスや』って思えたんです」。

ルネッサンス。その言葉にこめた願いは、まさに柵田(農)を通し、都市と学び合う中での

人と地域の復興だった。その取り組みの中心としたのが柵田オーナー制度である。そして、柵田を舞台に「恋華まつり」や「彼岸花まつり」といったイベントを立ち上げた。

こうして1996年春、「柵田ルネッサンス」が幕開けした。

柵田ルネッサンス

柵田オーナー制度

「柵田ルネッサンス」の舞台である稲渚の集落は、戸数60戸、40戸ばかりが農家である。石舞台古墳の南側に位置し、飛鳥京の人々の命を支えてきた場所だ。現在、田んぼの面積は約12町。20年前は20町ほど耕作していた。

柵田ルネッサンスの話が持ち込まれたとき、稲渚の役員会は「稲渚の活性化や、そろばんうつむけてやるう」と全員一致で取り組みに賛成したという。お金を出してでも柵田を耕作したい人がいるのかという不安にも「1万人に1人はおるやろ。奈良・大阪に600万人おつたら600人は集まるわ。30人くらいおるで」と現区長・田中元さん、前区長・豊田茂さんをはじめ、役員は動いた。そうして地区の有志で「柵田ルネッサンス実行委員会」が結成され、インストラクターとして30人が名乗りを上げた。

最初のオーナーの呼びかけに、

問い合わせは約800件。270人が応募してきた。その中から33人が選ばれた。60代のインストラクターの子どもの世代を多く選んだという。ちょうどお父さん、お母さんといって親しめ、また実際の跡継ぎたちにもいい刺激になったのだそうだ。

オーナーも地元も仲が良い。お会いした田中さん、豊田さんとも地元の歴史にも詳しく、会話がはずむ。オーナーたちもよく訪れ、柵田の中に建てられた1棟のビニールハウス「柵田ハウス」で夜更けまで酒を酌み交わすのだという。

しかも、米づくり以外に、季節の行事への参加、また45年ぶりに地元盆踊りを復活させたり、イベントでのオーナー店出店、あぜ豆づくり、炭焼き、クラフトづくり、案山子コンテスト、飛鳥鍋など地元料理、オオムラサキの飼育、地元を調査したすてきマップづくり……。ユニークなアイデア、やりたい遊びをやるだけの仲間と実行力、そして、それを楽しむ地域のノリの良さがある。

もともと、オーナーと地元を仲間にしてしまふ最初の仕掛けもよかった。1996年春、「第1回恋華まつり」では、オーナーたちも係を担当した。地元の人とオーナーは初対面ながらも一緒に受付をするなどお互いに「心安く(打ち解ける)」なった。

現在オーナーは田65組、畑35組、計100組だが、オーナーも地元もともに、すべてのイベントにスタッフとして参加するスタンスは、いまでも変わっていない。

オーナー制度の実施によって、地元が柵田耕作を楽しい「遊び仕事」だと考えるようになったという。しかも柵田を耕作することやオーナーの世話を義務としない。しかも、仲間として誇りが生まれ、明日香に生きる誇りが生まれ、人生が豊かになっていく。そして、さらに新たな展開を見せ始めている。高内さんはいま、

「いま、オーナーさんたちと生み出してきた炭焼きやストーンペインティング、彼岸花染めといったクラフトや料理などの産業化を図りたいんです。それから『人材バンク』。いま70名が登録をして、荒廃田の草刈りや広葉樹の手入れなどにボランティア(有償)で参加してくれていきます。これを1000人規模にして、労力提供だけでなく、シンクタンクにもなってもらう「ふるさと村民制度」を考えているんですよ」。

アイデアは尽きない。高内さんと地元住民、オーナーたちの友情がそこにある。何よりもその友情の強さが、信頼を生み、柵田オーナー制度を成功させ、次への展開を生み出すエネルギーの源のように思えた。

1999年(平成11年)7月16日、「食料・農業・農村基本法」が公布施行された。その第35条第2項で「適切な農業生産活動が継続的に行われるよう農業の生産条件に関する不利を是正するための支援を行うこと等により、多面的機能の確保を特に図るための施策を講ずる」ことが定められた。そして日本初、中山間地域等への直接支払制度が導入されることとなった。具体的な内容はどうなっているのか、中山間地域の現場ではどのようにとらえられているのか、自らの集落内の活性化に取り組み続けている新潟県安塚町の丸山 新助(あらたけ)氏に解説をお願いした。

「中山間地域等直接支払制度」

「どうして、もっと詳しく教えてください。」

「中山間地域等

直接支払とは」

農業地帯を大きく区分すると、平坦地と山間地とその中間に位置する中山間地から山間地が中山間地域とされている。中山間地域は急傾斜地が多く、農業を営むには多くの労力がかかり、生産性も低く採算が合わない。この平坦地帯との格差を是正し、農業生産の安定を図ることを目的に直接農家に支払われる補助金が中山間地域等直接支払いである。

こうした地域の中でも対象農地の基準として、急傾斜農地(田1/20以上、畑15度以上)など「農業生産の不利な1ha以上の面的なまとまりがある農地」という基準が設けられ、現在、市町村においてその地域指定が検討されているところである。わが安塚町においても担当職員が集落で説明会を開いている。課せられている条件はこれだけ

ではない。一般には「集落協定」に基づき、5年以上継続して農業生産活動を行う者が対象者となっている。

そして、受給額は水田1/20以上の場合は、10aあたり2万1千円と設定され、畑、草地、採草放牧地を含め、その総額700億円である。これを国と地方とで折半する仕組みとなっている。

「集落協定とは」

集落内において、耕作放棄の防止や農道の管理を含めた生産活動を継続させる側面と周辺山林の管理やグリーンツーリズム、また生態系の保全といった公益的機能を増進する側面の2面から「決め事をしよう」というものである。集落内において、おもに耕作放棄地の解消や土地の有効利用、機械の共同利用などをみながら申し合わせたり、新たな取り組みを決めようというわけである。

だが今、中山間地域のほとん

どが高齢化や他産業従事等で農業離れが進み、年々農地の荒廃や遊休地が増え、農業生産の低下が著しいのが現状だ。そしてこれは過疎を生んでいる。このような状況の中で、その地を再生させるだけの気力と体力が充分にあるのかどうか疑問である。

「延命農業で

あつてはならない」

わたしは、「中山間地域等直接支払」の落とし穴に日本の多くの集落が陥らないことを願っている。その落とし穴とは、「補助事業」に対するわれわれが従来抱いてきた「申請し、認可されて補助をもらう」といった体質のまま取り組みと、耕作放棄はますます進むであろうという懸念である。

「条件さえ満たせば、補助をもらえる」という発想で取り組み、たとえば「1ha以上のまとまった農地」という条件を満たせばよいゆえに、すでに耕作放

棄した土地を切り捨ててしまうという可能性が大きいのである。そして「5年」やればいい、と目先の対処ばかりに気がいった取り組みをしかねない。

直接支払いは延命農業であってはならない。5力年の直接支払いは効果の上がる制度でありたい。そのためには、それを利用する中山間地域の農業者たちが、国土保全の役割を担っているという誇りと責任を感じ、それを訴えていきながら、自らの地域をいかに荒れさせず、いかに活性化していくかにかかっている。

そして、これを機に国民の一人ひとりが、中山間地域の重要性について考えてほしいものであると同時に、それぞれの特徴が出る農山村を築きたいものである。

「中山間地域等直接支払をどう生かすか」

これからの農山村は「鬼追い

しかの山」の歌のように再現することがもっとも大切になっている。森林も水も食糧も文化もこの中山間地域が担っているといっても大げさではない。中山間地域は農業者だけのこととして片付けず、これからの日本人の生き方、豊かさをどう創り出すかにかかっている。国土保全やいろいろな役割を国が責任をもって位置づけていくことも必要だ。

この直接支払いをキッカケにして、これからの農山村の方向を見定めなくてはならない。「直接支払いを受けるためにどうするか」ではなく、価値の高い農業生産の場であり、学習や交流の場など限りある宝の山を有効に活用してこそ意義がある。農業や林業を中心にする農山村の価値は、尊いものであると同時に、人類が生きていく上で置き去りにすることのできない心のふるさとであるのだから。

(新潟県安塚町 助役 丸山 新)

全国土地改良事業団体連合会共催

「ため池フォトコンテスト」開催

さる10月26日、全国土地改良事業団体連合会が共催し、全国ため池等整備事業推進協議会が主催したフォトコンテスト「ため池のある風景」の入賞者の表彰式が行われた。ため池の役割と風景を見直そうと今年秋、はじめて開催されたフォトコンテ

ストであったが、1160点に及ぶ作品が寄せられた。

その中に、棚田とともにあるため池が多く撮影されており、全土連・企画研究部長の齊藤政満氏は「最優秀賞の作品を見ていただくとうまくわかりますが、ため池が棚田地域の貴重な水源になっていきます。近年、棚田が注目されてきていますが、そこに水を供給しているため池にも関心を寄せてもらえれば」と話している。

入賞した計44点の作品とも豊かな農村や水を見事に写し出し、多くの人に棚田とともにため池の存在をアピールするフォトコンテストとなった。

個人会員からの報告

第5回全国棚田(千枚田)サミット前日

個人会員の集いと交流会開催

9月17日午後 棚田協議会個人会員の集い

第3回の更埴サミットから開かれるようになった「個人会員の集い」。今回は時間的な制約で、サミット前日の開催となった。

雄大な丸山千枚田をすく上に見上げる位置に建つ千枚田荘、午後3時半、参加者は非会員オブザーバー2人を含む13人(途中から國學院大学の学生10人が傍聴)。現在の自治体中心の組織運営の問題点や個人会員の役割などについて討議。「今の協議会の規約では個人会員は全くオマケみたいになっているが、これからの棚田保全は個人や都市住民の積極的な活動なくしてあり得ない」「個人会員がもっと動けるように、もしも規約改正が必要なら検討してもらおうように要請しよう」という点で一致した。

「個人会員の集い」と「地元の人との交流会」をやりたい」「今年はサミットの日程からはみ出たような形で全体へのアウンスも充分ではなかったが、来年はそういうことのないようにしよう」と確認した。

9月17日夜 地元保存会との交流会

丸山千枚田保存会の皆さんとの交流会は、夕食を兼ねて午後7時から同じ千枚田荘で開かれた。個人会員が地元の方をお招きしてお話を伺う、サミット初の試み。大交流会ではなかなか隣付き合わせでというわけには行かないが、これなら少しはまともに話が聞ける。

参加者は個人会員の集いの出席者と、保存会から小西宏会長以下、5人の役員の皆さん(すべて男性だったのがちょっと残念。農村ではありがちなことだが)。

相互の自己紹介と乾杯の後、まずちょっと腹ごしらえをしてから、保存会の皆さんに質問に答えていただいた「う……なんて思っていたが、飲み食いが始まってしまったらもう賑やかなこと。個人会員同士も、まともに顔を合わせて話すのは初めてという人がほとんどなため、あちこちで「分科会」になり、とても全体を一つの流れで仕切るのは無理と判断して、そのまま各人で交流続行。

地元の方との交流企画は今回が初めてだが、保存会の方にとっても「何月か前に外国人も含めて30人ぐらいのグループが来て交流会をやった、それが初めてで、今回は2度目です」と言われたように、この種の企画はこれまでほとんどなかったらしい。「いろんな人と話すのは刺激になっていい。これからもこういう機会をどんどん作りたい」と、とても喜んでおられた。

(高野光世 東京都・正会員個人)



今夏、三越の棚田パノラマ体験展に参加して全国各地の素晴らしい棚田の写真を拝見し、大いに郷愁を覚えました。滋賀は甲賀の山里で育った私にとって、これこそ私の原風景と感動しました。

このパノラマ展には私の会社(安田火災)も協賛させて頂いたようですが、個人は何のお役にたつこともしておら

私が暮らす静岡県では、「棚田等十選」を選定しました。それにあわせて「しずおか棚田クラブ」を発足させ、遅ればせながら、本県も他県同様の試みを始めたことに喜んでいます。

犬塚 雅敏(静岡県・正会員個人)

会員募集中

全国棚田(千枚田)連絡協議会
お申し込み・お問い合わせは協議会事務局
新潟県安塚町役場まちづくり振興課
新潟県東頸城郡安塚町安塚722-3
TEL 02559-2-2003 FAX 02559-2-3505

新しく会員になったみなさま

正会員(自治体) 宮崎県 高千穂町
正会員(団体) 全農パールライス・関東マーケティング本部
賛助会員(個人) 東京都/小笹徳浩 東京都/木村まり
大阪府/角井 明(舞台雑誌店) 愛媛県/片岡芳彦
個人賛助会員から団体正会員に変更 健康&食料機関 代表 鎌野定一

編集後記

各自自治体等担当者の方々、ご協力ありがとうございました。今後とも地域情報をお寄せください。また新たに「お便りテラス」というコーナーを設けました。フルにご活用ください。前号、誤字がございました。p3 下段左カコミ内22行目「◇宮崎県」→「◇宮城県」、p4 左2段目1行目「(静岡県浜松町)」→「(静岡県浜松市)」。たいへん失礼いたしました。 石井里津子

最優秀賞..「ため池のある風景」小足池(山口県油谷町) 木下和巳(山口県豊北町)

